

マタイの福音書 第16章 3節

「朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。」

天気がどうなるだろうかと注意するのは日ごろの関心であり、話題となる。天気によって服装、履物、備える物が変わる。それだから、朝の空模様で、その日の天気を見分けようとする。漁業、農業、林業、いずれも自然を相手にする生活には不可欠な心構えだ。熟練者であればあるほど、空模様の見極め精度は高まる。

それらのことを知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか、と問う。当然わかるでしょう、と問う。空模様から時のしるしと展開する。空模様の観察から、やがておとずれる天気を予測する。なにか特定の時を予見するしるしがあるということだ。例えば、台風一過のあとに飛び交うトンボは秋が間もなく到来するしるしである。これら自然界の時のしるしは少し目をこらすとどなたでもわかる。

ところが、ここでは、なぜ時のしるしを見分けることができないのか、と問う。この時はどのような時の意味だろうか。自然の変わり様の時は見分けられる。しかし、この時はそうではないという。自然の背後におられるお方に属する時だろうか。

2023年9月11日